マレーシアにおける新しい美術教育課程について

―初等美術教育の事例―

福　田　隆　眞

On the New Curriculum of Art Education in Malaysia：a case of primary education

Takamasa FUKUDA

(Received September 29, 2006)

はじめに

マレーシアの美術教育課程を調査研究する目的は以下である。一つは、平成10年度のわが国の教育課程の改訂により、美術の学習指導要領では外国の美術に関わる学習において、欧米だけでなくアジア諸国の美術に触れることを促している。そして東南アジア諸国の多くは多文化社会を形成しており、その一つの例としてマレーシアを取り上げている。二つ目は、マレーシアが西欧諸国の影響を受けながら独自の美術教育を模索している点に注目しているからである。同時に、そのことにおいては、伝統文化と現代文化・現代文明の関係性が問題となってきている。そうした西欧の影響と独自の文化の模索を考慮した美術教育を目指していると見えるので、継続的にマレーシアの美術教育を調査研究している。(注1) そしてこのことは、わが国が美術教育の独自性を考える上で参考となると考えている。

本稿ではマレーシアの初等美術教育の教育課程と教材について資料を基に述べる。

1　現在のマレーシアの教育の概略

マレーシアは現在、約2400万の人口を擁し、マレー系とその他原住民が60%、中国系30%、インド系８%からなる多民族・多文化国家である。教育の基本理念は1969年に制定された国家理念である「ルクヌガラ(RUKUNEGARA)」に基づいている。以下である。(注2)

我々マレーシア国民は以下の5つの目的の達成を目指す。
1）複合社会の統一された国家
2）法的に選ばれた国会による民主社会
3）すべての者に平等な機会がある公正な社会
4）多様な文化的伝統を持つ自由な社会
5）科学と現代技術を志向する進歩的社会
これらの目的の達成は以下の原則によって導かれる。
1　神への信仰
2　国王と国家への忠誠
3　憲法の擁護
4　法の支配

5　良き行動と道徳

そしてこの国家理念によって教育理念が次のように定められている。

マレーシアの教育は全体的で、総合的な個人の潜在能力を高めることを目指し、知的、精神的、情緒的、身体的な潜在的可能性を、神への信仰と服従を基盤として、均衡のとれた調和的な人格を発達させる適切な努力である。こうした努力は、見識のある規律正しい、責任感のある個人の福利を獲得し、社会と国家の調和と発展に貢献できるマレーシア国民を形成しようとするものである。

教育制度は6－3－2制であり、初等教育6年（小学校）と中等教育前期3年(中学校)と中等教育後期2年（高等学校）となっている。小学校、中学校、高等学校の最後にはそれぞれの国家試験が課せられている。

小学校での教育内容は「コミュニケーション」、「人間と環境」、「自己開発」の3つの領域に分かれている。そして、「コミュニケーション」領域では1～6年生まで、マレー語、中国語、タミル語、英語、算数の教科が課せられている。「人間と環境」領域では、1～3年生までにイスラム教育と道徳があり、4～6年では加えて、理科と地域学習がある。「自己開発」領域では、1～3年生までに音楽、美術、保健体育があり、4～6年ではそれらに加えて生活技術がある。授業時間は30分で行なわれている。

中学校での教育内容は、必修教科として、マレー語、英語、イスラム教育（ムスリム必修)、道徳（非ムスリム必修)、数学、理科、歴史、保健体育、美術、生活技術がある。追加教科として、中国語、タミル語、アラビア語がある。授業時間は40分で行なわれている。

普通高等学校では、必修教科として、マレー語、英語、イスラム教育（ムスリム必修)、道徳（非ムスリム必修)、数学、理科、歴史、保健体育がある。追加教科として中国語、タミル語、アラビア語がある。さらに、各分野の選択教科が用意されている。第1群(人文)では、マレー文学、英文学、地理、美術、アラビア語。第2群(職業・技術)では、会計原理、経済基礎、商業、農業科学、家政、追加数学、電気・電子工学、土木工学、機械工学、工業技術、工業製図。第3群（理科）では、追加理科、物理、化学、生物。第4群（イスラム学習）では、イスラム・タサウフ、コーラン・スンナ学習、シャリア学習。授業時間は40分で行なわれている。

2003年現在、小学校は7504校、中等学校は1833校となっている。

2　初等美術教育課程

初等教育の美術教育は「視覚美術教育(Pendidikan Seni Visual)」という教科名で行なわれている。2002年以前は「美術教育」とされていた。新しい教育課程では「視覚」と言う言葉が教科名に付加された。以下では、新しい教育課程における視覚美術教育の目的、活動内容について述べる。(注3)

（1）目的

小学校での視覚美術教育において、児童は次のことをできるようにする。

1）神の創造における美を尊重する。

2）視覚美術の活動において、活発に、批評的に、創造的にそして楽しく関わる。

3）五感を通して、知覚と想像の力を鋭敏にする。

4）造形美術の基礎とその活用方法を知る。
5）視覚美術の様々な活動において基礎的な技能を伸ばす。
6）秩序や配慮、安全を考慮したデザインに親しむ。
7）共同活動、自信、自己鍛錬、責任感などの価値観を育む。
8）マレーシアの芸術の名人や文化を知り尊重する。
9）視覚美術の作品制作において技術的な用具を使う。
10）効果的な余暇活動として視覚美術の活動に関わる。

（2）活動内容面

視覚美術の主な活動は次の4つの面である。
1）活動への関心。
2）道具と材料による批評的、創造的な相互作用。
3）平易な視覚美術の鑑賞。
4）生活の観点から全てのことを尊重する。

（3）内容解説

視覚美術教育の内容解説は後述のように1学年から6学年まで詳しくなされている。この解説は教師が学習計画を立て、授業をより効果的に行なうために役に立つことを目的としている。各学年の詳しい解説は3つの基本線を用意している。学習分野、学習成果、学習活動例である。そしてこれらには3つのレベルが想定されている。

レベル1：視覚美術の概念と機能の説明を理解する。このレベルは児童が全員達成される必要がある。
レベル2：作品制作をするために適切な道具、材料、技術が使用できる。
レベル3：このレベルの活動は質が高く創造的な性格を備えた作品制作を重視する。

3　初等美術教育内容解説

2002年の教育課程の改訂を受けて、学習指導要領に相当する解説が公表された。それには具体的な教材が提示されている。各学年における学習分野と教材例を簡略に紹介する。(注4)

（1）1学年

目的：1学年修了までに児童は次のことが出来る。
1）各活動の概念と機能を理解する。
2）様々なもの、道具、材料の効果を自発的に開拓、選択する方法で感受し確実に理解する。
3）好き嫌いの面からものを見たり触れたり聞いたりして明らかにする経験をする。
4）材料を創造的に、選択し、設定し、整理し、操作する。
5）絵画、デザイン、工作、工芸の活動を通して、感情、考え、イメージを明らかにする。
6）楽しい気持ちで視覚美術の活動を行ない、充実感を得る。
7）共同作業、自信を持つこと、秩序、清潔と安全の強調のような純粋な価値体験をする。
8）自分と友達の作品を理解し尊重する。

以上の目標を達成するために、具体的に次のような教材例が提案されている。
1）絵画：①身の周りの線の効果を観察する。白蟻、蝸牛、蟹、水路、タイヤの跡、靴底の形などにより線の性質や種類を観察する。例えば、厚い、薄い、深い、浅い、破線、直線、ジグザグなど。②スケッチ③擦り絵④線画⑤トレース⑥コラージュ

2）模様とデザイン：①スタンプ②折りたたんで切る③擦る④重ねる⑤コラージュ⑥ドロップ⑦スケッチ⑧版画
3）工作：①簡単な建物②オーナメント③マスク④折り紙⑤材料：ペットボトル、缶、箱、紙、粘土、色紙、プラスチック
4）伝統工芸の理解：①アニャマン②凧③陶芸④独楽⑤材料：色紙、マニラ紙、箱、雑誌、プラスチック

（2） 2学年

目的：2学年修了までに児童は次のことが出来る。
1）各活動の概念と機能を理解する。
2）様々なもの、道具、材料の効果を自発的に開拓、選択する方法で感受し確実に理解する。
3）好き嫌いの面からものを見たり触れたり聞いたりして明らかにする経験をする。
4）絵画、デザイン、工作、工芸の活動を通して基礎的材料、応用的材料を扱う。
5）材料を創造的に、選択し、設定し、整理し、操作する。
6）自然材料や特別の材料を開拓することを通して、視覚美術の様々な技法と制作過程を使用する。
7）共同作業、自信を持つこと、秩序、清潔と安全の強調のような純粋な価値体験をする。
8）視覚美術の活動に関心、創造力、イメージを高める。

以上の目標を達成するために、具体的に次のような教材例が提案されている。
1）絵画：①ステンシル②コラージュ③漫画④フロッタージュ⑤スタンプ⑥版画⑦はじき絵⑧彩色画⑨引っかき絵
2）模様とデザイン：①引っかく②はじく③彩色④スタンプ⑤コラージュ⑥ステンシル⑦版画⑨折って切る
3）工作：①オーナメント②人形③模型④トレース⑤折り紙⑥お面
4）伝統工芸の理解：①バティック②凧③装飾④陶芸⑤アニャマン⑥ポートフォリオ

（3） 3学年

目的：3学年修了までに児童は次のことが出来る。
1）各活動の概念と機能を理解する。
2）材料を創造的に、選択し、設定し、整理し、操作する。
3）絵画、デザイン、工作、伝統工芸の活動を通して、様々な道具、材料技法を開発する。
4）視覚美術の活動に関心、創造力、イメージを高める。
5）作品に見られる植物、動物の要素を評価し鑑賞する。
6）共同作業、自信を持つこと、秩序、清潔と安全の強調のような純粋な価値体験をする。
7）自分と友達の作品を尊重する。

以上の目標を達成するために、具体的に次のような教材例が提案されている。
1）絵画：①ステンシル②モンタージュ③スタンプ④彩色⑤コラージュ⑥はじき絵⑦漫画⑧重ね絵⑨版画
2）模様とデザイン：①版画②スタンプ③折って切る④紐で引っ張る⑤コラージュ⑥ステンシル⑦重ねる⑧彩色
3）工作：①彫刻②トレース③模型④お面⑤アッサンブラージュ⑥楽器⑦紙の積層

4）伝統工芸の理解：①バティック②凧③独楽④アニャマン⑤陶芸⑥装飾⑦防具

（4）第4学年

目的：4学年修了までに児童は次のことが出来る。

1）各活動の概念と機能を理解する。
2）創造的な方法で作品制作を行ない造形美術の基礎的要素を理解し活用する。
3）作品制作のために道具、材料、技法を使用する知識と技能を高める。
4）視覚美術のすべての活動において創造力とイメージを高める。
5）共同作業、自信を持つこと、秩序、清潔と安全の強調のような純粋な価値体験をする。
6）自分と友達の作品を尊重する。
7）ポートフォリオ制作のために情報と知識を収集記録する。

以上の目標を達成するために、具体的に次のような教材例が提案されている。

1）絵画：①描画②ステンシル③コラージュ④はじき絵⑤スタンプ⑥モザイク⑦版画⑧彩色画⑨自然の観察
2）模様とデザイン：①スタンプ②版画③描画④折って切る⑤重ねる⑥コラージュ
3）工作：①彫刻②模型③モビール④お面⑤ジオラマ⑥アッサンブラージュ⑦デモンストレーション
4）伝統工芸の理解：①織物②陶芸③刺繍④ビーズ⑤アニャマン⑥ポートフォリオ⑦デモンストレーション

（5）第5学年

目的：5学年修了までに児童は次のことが出来る。

1）各活動の概念と機能を理解する。
2）創造的な方法で作品制作を行ない造形美術の基礎的要素を理解し活用する。
3）制作において観察の基礎を発展させコンピューター支援を発展させる。
4）視覚美術の活動と他の科目を創造的に新しい考えで相互に混ぜ合わせる。
5）創造的な制作において様々な道具、材料、技法を組み合わせる。
6）共同作業、自信を持つこと、秩序、清潔と安全の強調のような純粋な価値体験をする。
7）地域の画家や工芸家の表現を評価する。
8）ポートフォリオ制作のために情報と知識を収集記録する。

以上の目標を達成するために、具体的に次のような教材例が提案されている。

1）絵画：①コラージュ②はじき絵③彩色画④モザイク⑤版画⑥スタンプ⑦描画⑧コンピューターによるペイントブラシ、フォトショップ、ワードの使用⑨神の創造における造形美術の要素の学習⑩展覧会の批評、児童の作品の批評
2）模様とデザイン：①彩色②描画③コラージュ④はじき絵⑤対象を飾る⑥折って切る⑦コンピューターによるペイントブラシ、フォトショップ、ワードの使用
3）工作：①彫刻②人形③アッサンブラージュ④楽器⑤装飾⑥パッケージ⑦コンピューターによるペイントブラシ、フォトショップ、ワードの使用⑧ポートフォリオ
4）伝統工芸：①バティック②木工③織物④陶芸⑤アニャマン⑥刺繍⑦コンピューターによるペイントブラシ、フォトショップ、ワードの使用

（6）第6学年

目的：5学年修了までに児童は次のことが出来る。

1）各活動の概念と機能を理解する。
2）造形美術の基礎を強化し創造的で機能的な視覚美術の作品制作を行う。
3）造形美術の基礎的知識を高め制作の中で応用する。
4）制作においてコンピューターの使用を発展させる。
5）視覚美術の作品制作において道具、材料、技法を多様化する。
6）視覚美術の活動を通して地域の画家の表現とマレーシアの文化の要素を尊重する。
7）自分の作品や友達の作品を口頭で説明しポートフォリオに学習の記録を残す。
8）共同作業、自信を持つこと、秩序、清潔と安全の強調のような純粋な価値体験をする。

以上の目標を達成するために、具体的に次のような教材例が提案されている。

1）絵画：①コラージュ②彩色画③モンタージュ④モザイク⑤描画⑦コピーによる版画⑧コンピューターによるペイントブラシ、フォトショップ、ワードの使用
2）模様とデザイン：①彩色②カリグラフィー③コピーによる版画④平面と立体の装飾⑤折って切る⑦ポートフォリオ⑧コンピューターによるペイントブラシ、フォトショップ、ワードの使用
3）工作：①彫刻②人形③アッサンブラージュ④楽器⑤装飾⑥パッケージ⑦コンピューターによるペイントブラシ、フォトショップ、ワードの使用⑧ポートフォリオ
4）伝統工芸の理解：①バティック②木工③織物④陶芸⑤アニャマン⑥刺繍⑦コンピューターによるペイントブラシ、フォトショップ、ワードの使用

4　初等美術教育課程の特徴

マレーシアの美術教育において、小学校では教科書に相当する教育用書籍がまだ刊行されていない。中学校、高校では学習参考書の位置づけで、民間から教育用書籍が出版されている。それは中学校、高等学校を修了する段階で学力試験が実施され、その対策としても学習参考書が必要とされている状況にある。小学校修了時にも学力試験は実施されているが、美術教育においては、受験対策としての逼迫間がまだ少ない状況であろう。従って、学習指導要領に相当する解説書には、具体的な教材が提示され、教師はそれらの教材を実施することが求められている。そして解説書をより詳細に記述した教師用教材集が教育省から発行されている。それらを概観し、2002年の新しい教育課程での初等教育の美術教育の特徴は次のように考えられる。

（1）教科名に「視覚」を付加したこと

従来の教科名は「美術教育」であった。今回の改訂に伴って、「視覚」という言葉が付加された。しかもそれはマレー語の見る（melihat）ではなく、英語の visual を使用している。前回の改訂が1988年でその後の生活環境の変化発展に伴い、視覚的環境も大きく変容してきた。特に、コンピューターの日常化により映像の環境はその変化が著しい。このことに対応するために、各学年の各分野にはコンピューターの使用による教材が提示されている。それは現段階ではソフトウエアの使用が主な目的となっている。

（2）イスラム教の影響

国教がイスラムであるからそのことによる影響として、神の創造した世界を前提として美に対しても尊重することが既定されている。このことは従来と同様である。

（3）学習分野の設定

具体的な学習分野は、絵画、デザイン、工作、伝統工芸の理解の４分野である。これについても大幅な変更はないが、前述のように、第５学年から各分野にコンピューターの使用が導入された。ソフトウエアの活用で、ペイントブラシ、フォトショップ、ワードである。具体的に既定されている。また、全体のバランスからすると、絵画の分野においてもデザインと同様の技法が見られるので、デザイン、工作分野が半分以上を占めていることになる。

（４）造形要素と視覚言語の重視

造形制作の考え方と手段として、造形要素と視覚言語が重視されている。このことは中等教育に進むとさらに詳細になるが、初等教育段階においても、重視されている。しかも、絵画分野とデザイン分野においてほとんど共通に学習するように配列されている。そして学年が進んでも同じ技法が重複して配置されている場合が多い。

視覚言語は1920年代にバウハウス、ヴフテマスなどの機関によって開発された造形方法と造形思考である。このことは、アジアの植民地化されていた国々では影響が大きく、独立後の教育内容の検討において、シンガポールが先例であるが、視覚言語が重要視される傾向にある。それはわが国においても同様な経緯を経てきた。特に、経済成長に伴う産業教育やデザイン教育が発展する段階においては、インターナショナルスタイルを志向する造形要素と視覚言語の導入が違和感なく進められてきた。現在のマレーシアも同じ状況にあるといえる。

（５）伝統工芸の理解と継承

アジア諸国には西洋の枠組みとは異なる美術文化が存在している。美術教育の学習分野は西洋の教育制度、教育内容の影響が大きく、美術教育の内容においても西洋の美術教育に習ってその教育を始めてきた。しかし、アジアの国々では、純粋美術という分野よりも装飾や工芸といった生活に根ざした美術分野が伝統的に存在している。マレーシアにおいてもバティックやアニャマンといった独自の伝統工芸が存在している。それらは現代の生活に根ざしている場合もあるが、現代文明によって同様な機能を持つものに取って代わられる場合もある。従って美術教育において伝統工芸の継承と理解を進めるために教材として提示されている。理解することが目的であるが、学年によっては制作を伴うように提示されている。

おわりに

マレーシアの美術教育の初等教育段階の教育課程と学習指導の解説を述べてきた。教育課程のレベルではその教育の実態は正確に把握することは出来ない。また、2003年に設定された教育課程であるから、内容の実施までには時間を要する。

美術教育の実施においては、人材と施設・設備を要する。これらが不足した場合には教育課程に示される教育内容を遂行することは困難である。また、美術教育という内容を他の教科と比較した場合、必ずしも同等に扱われない場合がある。学校教育段階での教科の優先順位では低く見られる場合もある。しかし、マレーシアの初等教育段階では、全人的な教育を目指し、７つの資質である言語的資質、論理的資質、空間的資質、聴覚的資質、運動的資質、自律的資質、人間関係的資質を設定し、それらの均等な発達を目指している。視覚美術教育もその一つである。

美術教育の教育方法として、造形要素と視覚言語の導入がなされているが、その方法は機能的、効率的であるといえる。そして普遍的な要素や視覚言語が想定されて、いわゆるデザイン教育の分野で有効な手段となっている。しかし、美術の伝統的文化や現在の生活環境を考慮した視覚言語の確立が必要となっている。地域や国の独自性を考慮した視覚言語の内容の確立が

求められると考えられる。マレーシアの美術教育は、方法論を教える美術教育としての発展が期待されている。

注

1　福田隆眞　「東南アジアにおける美術教育カリキュラム基礎調査研究ーマレーシア、シンガポール、インドネシアの事例ー」　平成10年度～平成12年度文部省科学研究費補助金基盤研究（B）（2）　平成13年　共同研究者：佐々木宰　小平征雄　研究協力者：中矢礼美

2　この項目については次の資料を参考にした。
マレーシア日本人商工会議所調査委員会編集　「マレーシアハンドブック　2005」マレーシア日本人商工会議所　2005

3　以下の資料による。
KEMENTERIAN PENDIDIKAN MALAYSIA, “Kurikulum Bersepadu Sekolah Rendah, Huraian Sukatan Pelajalan PENDIDIKAN SENI VISUAL”, Pusat Perkembangan Kurikulum Kementrian Pendidikan Malaysia, 2002

4　3に同じ。